THE ROTARY CLUB OF TAKATSUKI　国際ロータリー　第２６６０地区

高槻ロータリークラブ
2020～2021
WEEKLY BULLETIN

四つのテスト

Ⅰ．真実かどうか

Ⅱ．みんなに公平か

Ⅲ．好意と友情を深めるか

Ⅳ．みんなのためになるかどうか

事務所　〒569-1116　高槻市白梅町 4-1 高槻阪急 6 階
TEL　072-683-1158　　FAX　072-683-1174
URL　　http://www.takatsukirc.org/
E-mail　takatsuki.rc@bird.ocn.ne.jp

例会日　毎週水曜日　12:30～13:30
例会場　高槻阪急 6 階 多目的ホール　TEL　072-684-5379
創　立　1954 年 6 月 15 日
会長　井前憲司　**幹事**　内本繁　**クラブ運営委員長**　長山正剛　**会報担当副委員長**　坂野信一

No.41　　2021 年 6 月 9 日　発行

６月はロータリー親睦活動月間

◎臨時休会のお知らせ

・大阪府への緊急事態宣言の期間再延長を受け、6/9(水)・16(水)の例会は休会とさせていただきます。6/23(水)以降の例会につきましては、食事なしの時短例会（12：30～13：15）での開催を予定しております。

◎各記念月御祝に該当の会員の皆様へ

・この度は、おめでとうございます。誕生記念御祝・結婚記念御祝・入会記念御祝・創業記念御祝の御祝の品は、全てクオカードに変更し、ご自宅へ郵送させていただきます。ご了承いただきますようお願い申し上げます。

６月度　記念月御祝

◎誕生記念

片山　美智子君　　藤田　貴子君

◎結婚記念

長山　正剛・由美御夫妻　30 周年
浜田　哲也・豊子御夫妻　25 周年

◎入会記念

倉本　　進君　39 周年
赤羽　　卓君　1 周年
浜田　哲也君　1 周年
森木　亮二君　1 周年

創業記念月御祝

長井　正樹君　㈱高浄
S.44.6.2　52 周年

◎会長メッセージ

コロナ第 4 波の禍中、収束はまだ先が見通せない状況です。ワクチン接種の普及が解決の鍵でしょうが、会員の皆様はワクチン接種の状況はいかがでしょうか。私も予約のため 2 時間半並びましたがうまくいきませんでした（その後娘が何処かで予約してくれたので 6 月中には完了しそうです）。

さて 4 月 28 日 IM2 組の西川ガバナー補佐がコロナの中でロータリークラブとしての活動に代わる案について地区提案を作成されたので、それを会議所の場所をお借りして説明を受けました。ポイントは、コロナ禍で困っておられる方々をRCとしてどう支援できるかについてです。我々が外出自粛制限を受ける中で支援活動も制約されていました。一方、各クラブでは例会休止や委員会活動の中止によって余剰金がでています。地区は、それを資金面で困っておられる方に振り向けてはとの提案でした。これをうけて、早速 3 役で何が出来るかを相談しました。添付の内容でまず支援できるのではないかと会長試案を作成し前回の理事会にはかりました。一口に支援といっても事実困っておられる方は非常に多く、またコロナ禍での緊急対応ということで、対象を絞らざるを得ませんでした。支援対象の選定基準は、先ず認知度・活動目的がはっきりしており、予算報告などをきちんと行っている団体であること、対象地域は国内であることとして選びました。剰余金の使途や額については会員の方々が、納得いただけるものでなければならないのは当然です。時間をかける必要があるかも知れませんが、前代未聞の災難を前にして、日々の食事に窮しておられる方々がおられます。すべての方々に手を差し伸べることはもちろん不可能ですし、継続的には政治の仕事と思います。しかし、RC として決定を先送りしていいものか、との思いで理事会にて提案し、討議いただく予定でした。結果は討議時間の関係で添付資料の会長提案は限られ

ロータリーは機会の扉を開く

ホルガー・クナーク　RI 会長

た時間の中で実行するには少し厳しく、撤回しています。しかし時間的には厳しかったかも知れませんが 100 年に一度と言われる非常時での対応について、柔軟性と敏速性が求められたのかも知れません。ポール・ハリスさんは、「私たちは自己満足してはならないし、思考力を硬直化させてはならない」、つまり、先人達が経験していない事態については、思考回路を柔軟にして行動すべきといっています。コロナ禍での事態は地区が提案する内容が私は相応しいと思っています。金銭についての奉仕活動は、米山や財団で継続的に行っていますが、今回の会長提案をご覧いただき更にインパクトのある奉仕活動に繋がればと思っています。

これで会長の時間を終わります。

※添付資料【資金援助のための会長提案】

20－21年度高槻RC
予算・予実と金銭奉仕について

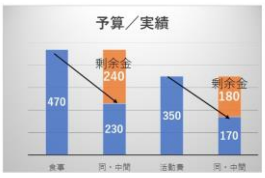
会長提案

井前　憲司
2021年5月19日

今期予算と剰余金

RC年間収入概略

会費	1300
ニコニコ	250
繰越	250
収入	1800



正確な金額は会計報告と年度決算を正として御参照ください

現時点で食事代で240万、活動費で180万余る見込み

剰余金の扱い方

- 会員各自に金等に返金する
- 食事券で返す

この方法はしない

- コロナ禍で困っている人たちに**金銭奉仕**する
- 70周年プレ記念事業用として

スケジュール感（このスケジュールは時間切れのため撤回です）
＊5月19日理事会に会長案提案（本ファイル）→賛同なら
＊6月６日の例会で会員に告知（開催不可の場合メールにて）
＊6月中旬までに理事会にて予算精査していただき実行
＊実施内容は羽根田次期会長に引き継ぐ

地区からの提案プロジェクト

本プロジェクトの目的

❶ロータリアンの希望の扉を開く	・コロナ禍にあっても参加できるイベントを企画し、ロータリアンに元気を届ける
❷子どもたちの希望の扉を開く	・コロナ禍で苦しい思いをしている青少年・子どもたちに 笑顔を届ける
❸将来のロータリアンの希望の扉を開く	・ロータリー希望の扉プロジェクトの広報活動により認知度をアップする

参加の仕方は自由 希望の扉を開けよう！

OK
奉仕活動のための原資集めのために、チャリティBOXを回し、子どもたちの奉仕活動を実施する

クラブ予算の余剰金を拠出し、子どもたちへの奉仕活動を実施する OK

OK
RACと合同で講演会後のオンライン交流会を実施し、新たな奉仕活動を相談し実施する

奉仕活動の参考例

対象例１　児童養護施設の子どもたちへ
・児童養護施設にたとえばオンライン機材を寄贈し、オンラインで外と接する機会をプレゼントする　など。

対象例２　ひとり親家庭の子どもたちへ
・ひとり親家庭の子どもたちに支援団体を通じて支援を行うなど。

対象例３　大阪在住の留学生へ
・コロナ禍でアルバイト収入が絶たれた留学生に支援を行う　など。

これらの奉仕活動詳細は、ガバナー補佐までお問合せ下さい

❸ 将来のロータリアン希望の扉を開く

地区HP『希望の扉プロジェクト』などのデジタル媒体を通じて情報発信することで、若年層に対してもロータリーの認知度をアップする。

発信する内容

誰かの希望の扉を開くことができた奉仕活動を地区ホームページなどデジタル媒体を使って発信する。

・講演会を聞いて感動したこと
・奉仕活動を実施して感じたこと

※既に終了した奉仕活動であっても発信OK・・・。
※これらの内容をフェイスブックやツイッターで拡散できます。

【子どもたちの顔写真などの個人情報保護には配慮をお願いします】

会長提案・・・剰余金の有効活用

- 地区からの提案を参考に3つに絞って金銭面で奉仕する

（1）**困っている子供達に→グットネイバーズ**
IM2組の呼びかけて共同援助を検討
西川G補佐協力いただく

（2）**地区の困っている方に→高槻ひとり親家庭福祉会**
東・西に呼びかけて共同援助を検討

（3）**市民に広くRCを知ってもらうとともに青少年に音楽を**
→新しいホールでオーケストラ演奏会
市および市文化事業団との共同企画行事

【1】困っている子供達に→グットネイバーズ

- なぜGood Naborsか

支援を求めているNPOは
＊ジャパンハート
＊ロシナンテス
＊国境なき医師団
＊国連WFP
＊その他
＊**グッドネーバーズ**
地区の推薦もある団体

NPO経由で海外での支援が中心

→ 日本支部通じて**国内**の困っている児童に支援が出来る

なおジャパンハートは羽根田年度で検討されることを期待します（松尾さんが提案された）

グッドネイバーズとは

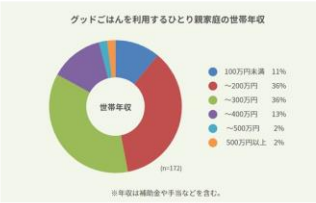
認定NPO法人グッドネーバーズ・ジャパンは、国際組織であるグッドネーバーズインターナショナルの一員として、国内外を問わず、支援を必要とする子どもたを守る活動をしています。

収入、教育、食など、さまざまな支援が必要とれています。
私たち認定NPO法人グッドネーバーズ・ジャパは、食に関する支援から始めることにしました

3食しっかり食べることができれば、学校での強への意欲が湧いてきます。また、家計に余裕できたことで、ドリルや参考書を買ったりするともできます。

あるお母さんは、「受験生だった娘は甘いもの食べられて元気になり勉学に励むことができました」と話してくださいました。

困窮するひとり親家庭の母親たち
美紀さん以外にも、貧困に苦しむひとり親家庭は多く、国内ではひとり親世帯の子どもの2人に1人[※1]が相対的貧困と言われています。ひとり親のお母さんたちの声をお読みください。
「子どもが『**おなかすいた**』と言っているのに、食べさせてあげられないことがありました」
「365日ほぼ休みの日がありません。仕事、育児、介護のため1日24時間では足りません。**自分の食事や睡眠時間を削っています**」
「経済的に厳しい時に不安で悲観的になり、子どもへの罪悪感の中、**その日その日を必死に**過ごしていました」
ひとり親家庭のお母さんたちは、**大きな不安と孤独を抱えながら、ぎりぎりの日々を送っています。**



私たちの支援を受けている方向けに実施した緊急アンケート[※3]では、ひとり親家庭の生活が予想を超えるレベルで困窮していることが分かりました。回答者の内、75%の方の収入が減っており、**6人にひとりは「収入が無くなった、ほぼ無くなった」**と回答しています。

低所得のひとり親家庭向けを対象に、1回の配付で1世帯に買い物かごいっぱいの18,000円相当の食品をお渡ししています。

初めてグッドごはんの食品を取りに来た方の多くは、かごいっぱいの食品を見て「**これ、全部いただけるんですか？こんなにもらっていいんですか？**」とびっくりされます。あるお子さんは「**ママと僕、二人だけで頑張っているからかなぁ。嬉しいね**」と話してくれました。

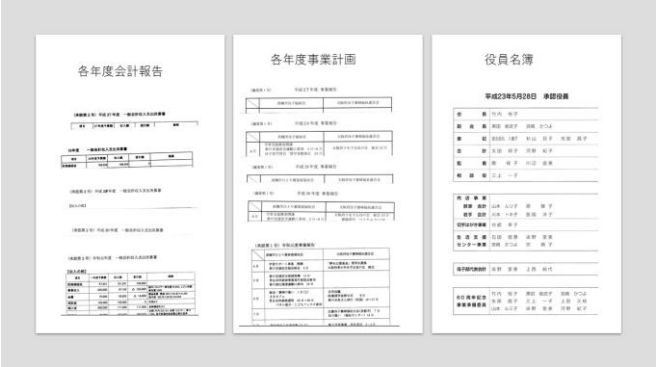
お子さんは毎食お腹いっぱい食べられるようになり、自分の食事を抜いていたお母さんは1日3食に戻すことができました。

【2】地区の困っている方に→高槻ひとり親家庭福祉会へ

選択理由：①市の社会福祉協議会に所属
②７０年弱の歴史がある
③活動目的が明確で弱者を支援している
④事業計画・予算・結果報告がしっかりしている

困っている児童に図書券など支給する案

困っている母子に野菜セット・冷凍食品・会員企業からなどで援助できないか



【3】市民に広くロータリーを知ってもらう →コンサートを企画

- 提案の趣旨
①高槻RC70周年のプレ記念行事として広く市民に来てもらう→結果をクラブ雑誌WEB等で公開
②23年度に現代劇場が新しく出来るので文化事業団と共催で→今回は市民・児童対象
こけら落とし行事として新しいホールで演奏会　（２３年４月1日など）
③過去5年間は高校生対象に各100万支援してきた
＊野球　＊和太鼓　＊ダンス　＊吹奏楽　＊ラグビー
④今回会長提案にあたって以下の（非公式）打ち合わせを行った
＊大フィル（大阪フィルハーモニー）（松村専務・福山部長）
市にぎわい推進課（上田主査・多田）
市文化振興事業団（上木専務・八木事務局長・森本・南部・大倉）
オーケストラの費用面：楽団出演=360万、指揮者＝120万、諸経費＝20万
＊市は23年4月1日で大フィルの演奏会を確保済み。
市案：市民には有料で公開予定
＊ロータリーと共催することで600席程度市民・青少年を無料で招待する
＊詳細は今後の打ち合わせによる

大阪フィルハーモニーとは

＊1947年4月に創設されたN協と並ぶ日本を代表する交響楽団
＊レコーディング・CDの発売活発に行っている
＊毎月フェステバルホールにて演奏会開催（コロナ対策で観客制限もあったが）
＊大阪の文化イベントとして各会社の広場など１８会場で50公演の実績

◎幹事報告

・6月ロータリーレート　1ドル：109円

・5/31(月)にメールもしくはFAXにてご連絡致しましたが、緊急事態宣言が6/20(日)まで再延長されることを受けて、緊急事態宣言中(6/16の例会まで)は引き続き例会を休会することにいたします。今年度最終月となっての休会再延長となりますが、ご了承くださいますようお願いいたします。なお、緊急事態宣言が6/20(日)で明けましたら、年度末となり残り少ない例会となっておりますので、6/23(水)の例会から再開したく存じます。今後につきましては、状況に応じて対応していくことになりますのでご了承くださいますようお願いいたします。また当面、会員の皆様とお会いすることができなくなりますが、引き続きご自愛くださいますようお願い申し上げます。

◎委員会報告

〇クラブ研修委員会　　藤井　敏雄

・ロータリーの友６月号推薦記事

１．今月の特集記事は「環境」です。

従来の重点６分野に加え、このほど環境が加えられ７分野となりました。その重要性は説明を待ちませんが、世界各地のロータリアンの活動が紹介されています。最後に、環境を重点分野に加えられたマーク・マローニー前会長へのインタビュー記事があります。その経緯、重要性と目的が詳しく語られています。

２．侃侃諤諤　新型コロナ体験 得たこと 失ったこと

今月は親睦活動月間ですが、それに関する記事はありません。コロナ禍で致し方ありません。悲喜こもごも（喜は少いでしょうが）各地のロータリアンの体験の記録です。

３．連載コミック「ポール・ハリスとロータリー」

職業奉仕をロータリーの理念とする「理論派」と、人道奉仕を唱える「実践派」の確執は抜き差しならぬものとなりました。そんな中で開かれた１９２３年のセントルイス国際大会で融和が図られました。これは、単なる妥協ではなく議論を尽くして、両派が納得できるロータリー精神を創り出したものです。この経緯は、私にも初めて知った内容もありました。ロータリアンにとって重要なことですので、是非一読ください。